

愛する郷土の史料を集め伝えていく

かわはらさき むつお
河原崎 陸雄 さん



PROFILE

かわはらさき むつお(朝比奈原・69)
26歳で10年間の研究をまとめた「浜岡町史料」を自費出版。現在は、県文化財巡回調査員として御前崎市、掛川市、菊川市、牧之原市にある県指定文化財の調査を担当。

文化財保護で地域貢献

河原崎陸雄さんは御前崎市や牧之原市、菊川市を中心とした地域の史実や伝承の研究に半生を費やしている郷土史家。長年の文化財保護活動を評価され、平成30年2月、地域のために献身的な活動を続ける団体や個人を顕彰する「第7回ふるさと貢献賞」を受賞した。

幼少期から祖父の影響で郷土の民俗や歴史に興味を持った河原崎さん。「朝比奈地区は歴史的な伝承が多く、先祖代々住んでいる人から地域に伝わる話を聞くことが楽しかった。小中学生の頃には自転車ですり松市や静岡市にある寺院や史跡を調べに行ったり、郷土史の研究発表会に参加したりしていた」と郷土史研究を始めた当時を振り返る。

郷土史研究に情熱を注ぐ

河原崎さんは社会人になってからも仕事の傍ら史料集めや研究を続け、現在収集した古文書などは約3万点に及ぶ。個人での研究以外にも、昭和46年に浜岡町史編さん委員に任命されて以来、浜岡町

文化財審議員、県の文化財巡回調査員などを歴任し、郷土史の継承や文化財の保護に力を入れてきた。中でも県の調査員は制度発足時から参加し、今年で44年目を迎える。「誰かが集めないとなつという間に史料が散逸し消えてしまう時代。愛する郷土の記録を守りたい」と一心に活動している。

次世代へつなげたい

調べるほど新しい発見があるという郷土史。「今日はどんな発見があるだろう」と毎日夢を描く。生きている限り研究を続けたい」と熱弁する河原崎さんの姿はとても生き生きしている。

これまでの研究成果を若い人へ引き継いでいきたいとの思いも抱く。「郷土の長い歴史の中で、人々の努力の末に今の御前崎の魅力が生まれている。そうした背景を知ることが魅力はより際立つ。古きをたずねて新しきを知る。それが市の明るい未来につながる」と信じている」と語った。

河原崎さんの活動とそれを支える郷土への愛が次世代へつながっていくことを願う。